

フルスクラッチ開発のご紹介

作り直しのない、 育ち続けるコア業務システムを。

パッケージでは届かない、御社だけのコア業務。一度作り、10年先まで育て続ける。

01 なぜ、フルスクラッチなのか

コア業務とパッケージの限界／フルスクラッチと
いう答え

02 選ばれる理由と、実績

要件定義・コスト・資産・発注先の選び方／導入
実績

03 アイピーシー株式会社のご紹介

会社概要・主要取引先・体制

勤怠・給与・会計はパッケージでいい。 でも、**コア業務**は？

どの会社にも共通する業務はパッケージが向いています。一方、売上を左右するコア業務は会社ごとに形が違う。**既製品に業務を合わせるほど、強みが削られていきます。**

COMMON / 共通業務

勤怠・給与・会計

どの会社にも共通。パッケージがFITする領域。

CORE / コア業務

御社だけの業務

会社ごとに形が違う。既製品に合わせるほど、強みが削られていく。

業務にシステムを合わせる、 フルスクラッチ。

システムに業務を合わせるのではなく、業務にシステムを合わせる。コア業務こそ、御社の形に合わせて一から作る価値があります。

業務にシステムを合わせる

御社の強みをそのままシステムに

育てることを前提に設計する

手戻りを生まない、要件定義。

育ち続けるシステムは、最初の土台で決まります。曖昧さを残さず、整合性の取れた設計に落とし込むことで、後からの作り直しが起きません。

- ✓ 曖昧な要件定義をしない
- ✓ 整合性の取れた堅実な設計
- ✓ 設計どおりに開発し、テストで裏づける

お客様の満足は、**細部に宿る**。丁寧な要件定義と堅実な設計が、5年10年の安定を生みます。

PROOF / 食品会社様

運用5年、不備ゼロの土台。

要件定義の不備ゼロ

設計書の不備ゼロ

フルスクラッチは、本当に高い？

費用を最も膨らませるのは、開発そのものよりも「**手戻り（作り直し）**」です。手戻りを起こさない進め方が、結果として総額を抑えます。

- 手戻りを前提にしない進め方
- お客様に不要な設計書は作らない
- リリース後の保守料は不要

PROOF / 取り組み・短納期の刷新

急がば回れが、結果的に最速だった。

ライセンス終了まで残り7か月。うち3か月を要件定義に投じ、土台を固めてから開発。見切り発車ゼロで期限内リリース。

70機能を新規開発

要件定義に3か月

手戻りゼロ

御社の**資産**として、**持てる**。

コア業務を支えるシステムは、御社の資産であるべきです。特定ベンダーに縛られず、長く自社で活かせる形にします。

脱・ベンダーロックイン

ソースコードは、御社のもの。

ソースコードの納品や、特定ベンダーに縛られない運用に柔軟に対応。
囲い込みではなく、資産として持っていただきます。

大手ベンダー

規模と網羅性

窓口が多く、コア業務の細部までは入り込みにくい面も。

中小・専任体制（当社）

小回りと深い理解

要件定義に深く入り、業務の形に合わせて作り込む。

一度作って、壊さず育てる。 - 内装業者様との長期パートナーシップ

長期パートナーシップ / ONE CLIENT, 10+ YEARS

内装業者様 —— 10数年、コア業務のすべてを。

作り直し（再開発）ゼロ

軽微なバグ 平均2件以内/年



この一社には、コア業務システム（45→450機能）をはじめ、領域を変えて複数のシステムをお任せいただいてきました。浅く広くではなく、一社と深く長く伴走できることも、私たちの実績です。

取り組み 01 / 既存資産を活かした刷新

既存のテーブル・データを活かして刷新。

30機能 **約4**ヶ月

既存データを引き継ぎ 構築〜リリース

取り組み 02 / 短納期のシステム刷新

残り7か月。3か月を要件定義に使い、間に合わせる。

70機能 **約7**ヶ月

新規開発 手戻りゼロ

取り組み 03 / 協力会社との受発注をクラウドへ

紙の帳票をなくし、AWSで受発注を一元化。

150機能 **10**種

協力会社側100+お客様側50 帳票を電子化

実績は一社だけではありません。

別のお客様 - 食品会社様

5年運用

不備のない土台が、
5年動き続ける。

40機能

2021 リリース時



5年

安定活用

要件定義の不備ゼロ

設計書の不備ゼロ

システム構成 / ARCHITECTURE

Web／スマホアプリと、AWSなどのクラウドを組み合わせた構成が基本。既存環境も活かします。



自社サーバー・既存クラウドをお持ちの場合も、柔軟に対応します。

事業承継・代替わりの一步を、焦らず、確かに。

承継後の見直しは、急いで大きく作るものではありません。必要な分だけスモールスタートし、手戻りを生まない堅実な進め方で、**新体制の確かな成果として長く残るシステム**を。

「小さく始める」と言っても、その小ささは会社ごとに違います。大事なのは数の大小ではなく「本当に必要か」を見極めること。必要なら、最初から相応の規模で作ります。

01 / RIGHT-SIZE

焦らず、必要な分だけ。

本当に必要な機能から小さく始め、作らずに済むものは作りません。曖昧さを残さない要件定義で、確実に形にします。

02 / LASTING

次の10年の、確かな土台に。

作り直しなく育ち続けるシステムは、新体制のもとで長く使える経営の資産になります。

03 / TRUST

現場の信頼を、システムで。

日々の業務に本当に効くシステムが、新しい体制への社内の信頼を、静かに後押しします。

弊社の社長も、事業を受け継いだ立場です。代替わりの重みも、失敗できないプレッシャーも分かる伴走者でありたいと考えています。

アイピーシー株式会社のご紹介

会社名	アイピーシー株式会社	
設立（創業）	1984年10月3日	
代表者	代表取締役 池田 直人	
従業員数	社員40名	
事業内容	要件ヒアリングから設計・開発・保守・運用まで、ITを手段としたトータルサービス。プロアクティブなアプリケーション保守・改善、システム運用・管理。	
事業所	本社／愛知県名古屋市中川区	事業所／神奈川県横浜市港北区

主要取引先 / CLIENTS

株式会社リコー

三井住友カード株式会社

株式会社ラックランド

日本アイ・ビー・エム株式会社

プロアクティブ保守：障害が起きてから対策するのではなく、未然に防ぐべく日頃からうまく保守・運用していく。当社が大切に
する姿勢です。

— お問い合わせ / CONTACT

コア業務システムを、 作り直さずに育てる。

まずはお気軽にご相談ください。現状の課題を伺ったうえで、フルスクラッチが適しているかを率直にお伝えします。

REMOTE WELCOME

打合せがリモートで可能なら、**名古屋・横浜・東京以外でも大歓迎**です。
要件定義をリモートで進められる場合は、**全国どこからでも**ご相談いただけます。

www.ipc-co.jp/fullscratch/

名古屋 / 横浜 / 東京 + リモートで全国対応 | アイピーシー株式会社